

1996年6月24日：北海道愛別町。まずはJR愛別駅方向にもどって、ミニサイクルを借りて近くにみえる山すそを探索する。砂利の多い広場から黒い土の道が上り坂となって小高い森に入り込んでおり、蝶がいそうな森をめざして坂道を登ってみる。ひょうきんなクロヒカゲが汗をかいた腕にとまったりして出迎えてくれる。右手はうすぐらいカラマツ林。左手奥には伐採あとの日当たりもいい開けた斜面が見える。昔、高知大豊郡の梶が森でウスバシロチョウのゆるやかな飛翔を楽しんだ、あのときの環境によく似ていて、いかにもヒメウスバシロチョウが出てきてもおかしくない。すばしっこく飛び交っているやや赤みの濃いオレンジのチャバネセセリの仲間はコキマダラセセリだろう。しばらく道路からこの斜面を観察していると、予測どおり、ふんわりと純白のヒメウスバが現れる。ノイチゴの白い花を転々と吸蜜して回っているようだ。雲が切れて晴天が斜面全体にひろがると、どこにいたかと思えるほど急にヒメウスバの白が増え、足場のよくない斜面草地で白いライダーとの追っかけっこを楽しむ。

1996年6月25日：愛山溪。自動車の往来が激しい国道沿いにきれいではないドライブインがあり、その前の道路標識が、愛山溪へはすぐ先の三叉路を右に入ればいいことを示している。19Kmとあって、かなり勾配を上げるだろうから片道3時間ていどだと覚悟する。ドライブインで飲物と腹の足しになりそうなものを調達して出発。国道を離れて数十mもゆかないうちにヒメウスバシロチョウがあちこちで悠然と舞う。愛別では数が少なかった



たこともあって、ノバラのトゲもある足場の悪い斜面をかなり無理して追いかけたが、ここでは平坦なアスファルト道路上でも簡単にホイホイとネットに入ってくれる。フキの葉っぱ上で思い切り羽を広げて日光浴をしている姿などを Video 撮影し、いよいよ広いアスファルト道路を奥へと入って行く。ここでも可



960625 愛山溪

憐なツマキチョウが地面とほぼ一定の距離を保ちながら道路を横切っていく。スモモの木がある人気のない民家庭周辺を大きなミヤマカラスアゲハが飛ぶ。道は次第に勾配をあげ、あたりの木々がいかにも北海道という感じとなり、ミヤマカラスアゲハが次から次へと、道路上をまっすぐに上手からこちらに向って飛んでくる。新鮮個体は少ないが、6月だというのに春型の特徴をもった後翅のコバルトブルーが美しい。

1999年7月5日：愛山溪。妻運転のレンタカーで国道39号をひた走る。石狩川に沿う道を進むと、チャリンコを借りて走ったなつかしい愛別町が見えてくる。そのままやり過ごしてJRが左に平行して走るようになると安足間。国道右手にドライブイン愛山溪が現れたところで国道を離れる。自転車ではかなりきつかった坂道を今日はすいすいと登ってゆく。この日はヒメウスバアゲハが人里離れた奥へと進んだあたりで初めて姿を現し、3年前には少なかったエゾシロチョウの方が多。